

2011年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2011年3月期第1四半期の業績について】

Q：2010年3月期の第4四半期と比べて今の事業環境はどうか？価格競争の状況など悪くなっているのか良くなっているのか？

A：良い点と悪い点が混在。良い点は、共同利用型サービスで顧客数が増えていることや保険向けが順調なことなど。悪い点は、経済環境がもう少し早く良くなって受注のパイプラインの見通しが改善すると思っていたが、思ったより顧客企業のIT投資が回復するタイミングが遅くなっていることなどが挙げられる。

Q：第1四半期の利益率の低下要因を教えてください。

A：外注費は引き続き適正化に努め減少したものの、減価償却費は中長期の成長に向けた投資に伴い増加している。それ以外については、無形固定資産投資が減少する中で、見合いのソフトウェア振替（つまり原価のマイナス分）が減っていることでコスト増要因になっている。加えて、不採算案件の影響でコストが増加した。

【第2四半期以降の見通し・施策について】

Q：第2四半期の受注の見通しについて教えてください。特に証券分野で下期回復を見込んでいるので、そろそろ受注がでないと感じると思うが。

A：受注獲得に向けて営業活動を積極化しているが、顧客がIT投資を回復させるタイミングが読みにくい状態。顧客自体も先が見えない中でIT投資の判断をされると思うので、当社としても明確な受注タイミングの見通しがあるわけではない。通期でなんとか目標を達成できるようにしたい。

Q：日銀短観は3月調査に比べ若干良くなっているようだが、3か月前に比べて証券業向けの業績予想の確度に変化はあるか？いい方向にむかっているか？

A：特に変化はない。顧客がIT投資を抑える一方、やらなければならないテーマの積み上がりもあり、一部動き始めているものもある。長期的な観点でのシステムの老朽化対応が必要になってくるケースも想定されるが、それらへの対応がいつ動き出すかはなかなか分かりにくい。

Q：売上高がそれほど減少しない中、利益が相当減っているのは、コストコントロールがうまくいっていないということだと思う。今後のコスト削減への施策があったら教えてください。

・本資料は、2011年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします

A : コストコントロールについては、できることはすべてやろうということで動いている。また、下期は増収の目標を設定しており、売上高を伸ばすことも重要なポイント。売上高アップとコストコントロールの両方を見ながらやっていく。例えば外部委託費のコントロール等は前期から実施している。中長期の事業を作るための投資はなるべく減らさないようやっているが、研究開発等については精査しながら実施する。

Q : 第 1 四半期の不採算案件によるコスト増というビハインドのある中で、通期見通しを変えていない。第 1 四半期のビハインドを取り戻すための具体的な施策を教えてください。

A : 抑えるべき経費は抑えている。第 1 四半期のような不採算案件を再び出さないようにしていきたい。売上高アップに向けては、コンサルティングとシステムの連携による営業も進めている。第 2 四半期以降で受注をどこまで積み上げることができるかが今期の成否を握るカギとなるので、営業活動に邁進している。

【不採算案件について】

Q : 不採算案件について詳しく教えてください。何件くらいあり、どれくらい先までの引当なのですか。また、金融向けと産業向けのどちらで不採算があったのか？

A : 個別プロジェクトの詳細については申し上げられないが、産業 IT ソリューションの中の不慣れな領域の大きなプロジェクトでいくつか不採算が発生した。それぞれのプロジェクトについて今後の見通しを含めて精査し、現時点で認識できる赤字については一括して認識した。

Q : 不採算案件について、今後起きないような仕組みや対策について説明してほしい。

A : プロジェクトマネジメントとその監視のための専門の組織を設置し、プロジェクトの状況を逐次モニタリングしている。プロジェクトによっては当初予想した収支より悪くなることはあるが、それらをなるべく早く察知して修復する機能を担っている。今回のような不採算プロジェクトの再発防止に向けて、さらに機能強化を図っていきたい。

Q : 新規分野の受注を増やしていく中で、今後も不採算案件が発生するのでは？

A : 重要なのは、事前にどれくらいリスクがあるかを見通し、その見通しの通りにプロジェクトを進めていくこと。それを着実に行うことで、予想を超えた不採算の発生を回避していきたい。

Q : 不採算案件の発生の要因は？

A : 新規分野で経験が浅いなかで、案件の難易度や必要な体制の規模感が事前に明確になっていなかったことなどが影響している。

Q : 第 2 四半期以降もリスクの高い新規分野の案件を獲得していくのか、あるいはリスクを抑えていくのか？

・本資料は、2011年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします

A：中長期の成長のためには、トップラインの拡大が非常に重要であり、顧客資産を作っていくことはあくまでも追求する必要がある。新しい仕事はリスクがあるが、そのリスクをコントロールしていくことが重要であり課題でもある。

【その他】

Q：CP の発行枠を設定しているが、資金調達の予定はあるか？

A：資金調達手段の拡充の一つとして行った。現時点で具体的な資金調達の予定は無い。

以上

・本資料は、2011年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします